

# 私の 3 冊

## 佐伯 拓也

さえき・たくや 理学療法士 11 年目

横浜市立大学附属病院リハビリテーション部

特定機能病院である大学病院で、2017 年から集中治療室（ICU）の専従担当として勤務しています。また、大学院では ICU 患者への理学療法、周術期リハビリテーションに関する研究を行っています。今回は集中治療領域における臨床で参考になっている書籍のなかで特に印象深いものを紹介します。

## 後輩に薦める 2 冊



### INTENSIVIST Vol. 10 No. 1 2018

#### 特集：PICS 集中治療後症候群

井上茂亮，藤谷茂樹 編集

MEDSi 2018 年

集中治療に関するさまざまな Topics について特集を組み刊行されている雑誌ですが、その中で PICS（集中治療後症候群）について特集された号です。救命が至上命題の集中治療領域の雑誌で、リハビリテーション医療に注目された非常に印象深い書籍です。PICS について、疫学や病態、対策まで深く掘り下げた内容が数多くあり、集中治療領域、急性期で重症患者への治療を行う方にはぜひ一読して頂きたいと思います。



### ナイスバルク！ 急性期のリハビリテーションと栄養療法 —筋トレのエビデンスから考える

中村謙介 著

金芳堂 2020 年

著者は救急科医師ですが、急性期における運動負荷や栄養療法についてわかりやすく書かれており、臨床での疑問を解決するヒントが多くちりばめられています。教科書としてだけでなく、単純に読み物としても面白く読めますので、集中治療領域でのリハビリテーション医療がとっつきにくいと考えている方にお勧めです。

## 自分の 1 冊



### あなたのプレゼン 誰も聞いてませんよ！ —シンプルに伝える魔法のテクニック

渡部欣忍 著

南江堂 2014 年

書籍コーナーで見かけた際、タイトルが非常に印象的で手に取りました。学会発表を行う医師・研究者を想定したプレゼンテーション手法に関する内容が主となっています。わかりやすいスライドの作成方法や発表時の伝え方などが充実しており、自分が学会発表や講演を行う前に必ず読み返して確認しています。読んでから学会へ行くと、他の演者の発表をプレゼンテーションとしての質の観点からも考察できるので楽しみが増えます。